

# 第3回小児ネットワークミーティング

## 「京都府南部における小児リハビリテーション － 宇治徳洲会病院での取り組み－」

- 日時 : 2020年12月12日 13:30～15:50
- 会場 : web開催
- 講師 : 宇治徳洲会病院  
理学療法士 石原 みさ子 氏
- 参加者 : 19名
- 内容 : ①情報提供  
②質疑応答、意見交換

# ①情報提供概要

## ➤ 宇治徳洲会病院の紹介

京都府南部圏域の総合病院 473床 特養・老健施設 250床

リハビリテーション科：PT56名 OT20名 ST14名 リハビリ事務2名

急性期、回復期、外来、通所、老健に配属

チーム制（2つのチームを兼務）で病棟を担当

## ➤ PT小児科チーム： 5名（COVITチームへ移動あり現在3名）

NICU、小児科（入院・外来）、訪問

## ➤ 小児チーム利用者内訳

- ・ 宇治市44%、京都府下25%、他府県（大阪、兵庫）
- ・ NICUと就学前のお子さん 約50% 20代30代も多い
- ・ 中学生<高校生 ⇒ 高校生は卒後を考慮し再開
- ・ CP、染色体異常 50% MR、てんかん 25% 心因性の歩行障害も
- ・ GMFCS IV30%> II 29%> V 24%
- ・ 入院をきっかけにリハが関わるケースも多い印象（保護者から希望）  
⇒他病院、療育施設と並行利用される方も多い

# ①情報提供概要

- 小児チームの目指すところ
  - 科学的根拠を明確にした取り組み、客観的データの積み重ね、
  - 英語力・発信力アップ、機器類の導入、
  - 地域に根差した活動、他施設や他業界とのコラボ
- 日々の課題
  - 収益性、時間、質、利用者の学校卒業後の生活 等
- 小児リハのテーマ
  - ・ 歳を重ねるということ
    - 成長と老化、重力との闘い（どう向き合うか）
    - 価値観：自分の思い、親の思い
    - 直面する問題に対応するだけでなく長い先を見て
  - ・ ゆっくり成長し同年代のスピードに追いつかないこと
  - ・ 歩けていてリハビリの対象にならなかったケースが、大きくなって来所
    - 外反偏平足、肩のない子、辛抱のできない子
    - 未熟な足関節で体重増→外反偏平足

## ② 質疑応答・意見交換

### ➤ 地域連携について

「病院、療育施設、支援学校、放課後デイ、訪問リハビリ 等子どもたちに関わる関係機関は多い。どのように情報共有・情報交換を行っているか」

⇒・ 保護者を通して聞く

- ・ 保護者の承諾を得て電話する、先方に出向く  
(そのためにもお互いを知っていることは有効)

- ・ 「はぐくみノート」や「個別支援計画」の活用

※「はぐくみノート」：在宅療養児支援連携手帳

京都府の医療機関・保健所で配布



「はぐくみノート」の存在を知らない参加者が多く、今後の情報共有のツールとしての利用が示唆された

## ② 質疑応答・意見交換

### ➤ 補装具について

「低緊張ベースで外反偏平足のあるお子さんに下肢装具を用いるが、いつまで使用すればいいのか迷う」

- ⇒・ 最低限成長期が終わるまでは必要ではないか
- ・ 未熟な足関節で重い体重を支えるため、大きくなっても足部への負担が大きく、可能であればずっと装着することが望ましい
  - ・ 歳を重ね、筋力が落ちたり、運動不足や生活スタイルの変化により肥満が進む等で足部への負担が増し、運動機能に影響してくるケースがある
  - ・ 医療機関に継続してかかっているケースでは、卒業等を機に更新しなくなることがある



先を見据えたフォローが必要

# ミーティングを終えて

- 20人程度が一堂に会して意見交換を行ったが、人数が多く、話し出しにくい雰囲気があった。
- 最初に講師からZoomでの研修を受ける際のルールや機能の使い方をご提示いただき、webに慣れない参加者にもわかりやすかった。  
⇒ 今後web研修を行う際の参考となった。
- チャット機能を用いて講師に質問したり、講師からの問いかけに対する返答を送り、講師がチャットの内容をみながら話を展開できた。
- 小児に関係する参加者が多く、病院、支援学校、療育施設、訪問等それぞれの立場から具体的な情報交換ができた。
- 他職種からの参加もあり、交流できた。
- 今後も有益な情報提供、有機的な交流を行っていきたい。